

# NEWS LETTER



岩手大学  
岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部  
岩手県立大学宮古短期大学部  
岩手医科大学  
富士大学  
盛岡大学・盛岡大学短期大学部  
放送大学岩手学習センター  
一関工業高等専門学校

～ 岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

2022.Oct  
No. 28

## Index

- ご挨拶 P.1
- トピックス P.2～4
  - いわて学
  - 地場産業・企業論／企業研究
  - グローカル基礎研修
  - 地域課題解決プロジェクト：  
「コンヤ、行こっか。」
  - 地域リーダー育成プログラム  
「地域を担う中核的人材」  
認定証授与式
  - ボランティアとリーダーシップ
  - 駅前講義
  - 大学進学率向上プロジェクト

## ご挨拶

岩手医科大学は、2020（令和2）年度に大学基準協会による第3期機関別認証評価を受審し、同協会の大学基準に適合しているとの判断を受けました。この結果、本学は2021（令和3）年4月1日から2028年（令和10）年3月31日まで、同協会の基準を満たした大学として認めていただくこととなりました。しかしながら、大学基準協会からの「改善課題」や「是正勧告」としての指摘事項については、2021年4月1日より継続的に自己点検とその評価を実施して、2024年7月末までに改善報告書を作成し提出しなければなりません。現在我々は、これらの「改善」や「是正」に向けたPDCAサイクルを適切に回すように取り組んでいるところでございます。

大学基準協会は、我々に対し、機関別認証評価を7年毎に受審するように義務付けています。今回は、前回（第2期）の認証評価時の状況とは異なり、「内部質保証」実現のための評価カテゴリーが新設されました。内部質保証の実現のためには、学生個々の学修成果を可視化して、客観性のある教育評価システムを確立する必要がありますが、これはとても難しい作業であることは言うまでもありません。現在、本学では、医・歯・薬・看護の4学部による学部間点検・評価システムを導入して、第三者的な教育評価システムの構築に努めております。しかしながら、肝心の「学修成果可視化の実現」のためには、実際にどのような方法を取り入れるべきであるのかについて、トライ＆エラーを繰り返しているところです。

このような状況の中、私は2021年度より、いわて高等教育コンソーシアムFD・SD推進委員会委員長を拝命しております。これまでには、山梨大学教育国際化推進機構大学教育センター長 埴雅典氏に「教育の内部質保証システムの構築に向けて」とのご講演をいただき、また、東北大学高度教養教育・学生支援機構講師 松河秀哉氏に「アンケートの自由記述を分析する」とのテキストマイニング実習を実施していただきました。いずれの研修会においても、学修成果の客観的評価を実現するためのヒントが含まれていて、とても貴重な内容でした。今後も、学修成果の可視化につながるFD・SDを実施して、高等教育における内部質保証に繋がる研修内容として参りたく思っております。どうぞ今後とも、皆様方のご指導ならびにご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



いわて高等教育コンソーシアム  
FD・SD推進委員会委員長

岩手医科大学 歯学部  
岩手医科大学全学教育推進機構委員会委員  
岩手医科大学全学自己評価委員会委員  
教授 石崎 明

## コア科目(必修)前期集中講義「いわて学」

大学のある盛岡周辺の歴史を理解するために、史跡として整備されている志波城、九戸城、盛岡城を巡りつつ、盛岡城下町や南部家の歴史を学びました。城跡などの歴史遺産は地元の人々にとって郷土の誇りであり、最近ではまちづくりに歴史遺産を取り入れる考え方が一般的になっています。城跡を通じて歴史を学ぶことに加えて、城跡の活用を目指すまちづくりの現状についても学びました。

3つの城跡それぞれで、整備と活用の現場で活躍している現役の自治体職員に、今回の講師を依頼しました。いずれも岩手大学で歴史学を学んできた講師であったこともあり、後輩たちのために熱心に解説するだけでなく、就職先としての自治体職員の仕事の魅力についても語っていただきました。

また、歴史遺物のまちづくりへの活用を考えるためには、まず学生自らの目で街並みを見て欲しいということで、班に分かれて街を探索する課題を設けました。街を見る際の注意点を講義で説明したうえで、各班が自らの興味・関心に応じて調査地域を設定し、現地調査の成果に関する発表会を実施しました。各班の発表内容は講師・教員から見れば初歩的な歴史遺物・痕跡ではありますが、それらを見つけたときの喜びや驚きを話す学生の様子からは、彼らが街歩き調査を楽しんだことが伝わってきました。

今年度前期の「いわて学」は履修定員50人を超える履修申込みがあり、抽選の末に51人を受け付けました。しかし、授業開講時期の前半が県内のコロナ感染者数のピークと時期的に重なったため、感染者・濃厚接触者が続出し、最終的に計9人が履修を取り消しました。結果的に、単位認定は、県立大学32人、岩手大学10人でした。



志波城古代公園 官衙内



九戸城(福岡城) 本丸東側の堀

## コア科目(選択)「地場産業・企業論/企業研究」

地場産業・地場企業の抱える課題に対して、デザインシンキングを用いて解決策を導き出すことで、県内企業についての知見を深めるとともに、課題を発見し解決へと導く能力を身に付けることを目的として実施致しました。

授業は集中講義で行われ、まずデザインシンキングについて理解し、共感、リフレーミング、創造、プロトタイプ作成、テスト、ブラッシュアップといったプロセスを、ワークショップを通じて実際に体験しました。続いて、県内の企業見学を通じて企業が抱える課題を発見し、着眼点を整理し、その上で、ペルソナやカスタージャーニーマップの作成、SCAMPER法、ハイライト法などを用いて課題解決に向けたアイデアを創造しました。

2022年度は1グループ4～5名から成る6グループ(岩手大学10名、岩手県立大学20名)が構成されました。受講生の所属する大学や学部は異なりますが、和気あいあいとした雰囲気、協力しながら次々とアイデアを膨らませていました。

地場企業は(株)東光舎様の御協力を賜り、井上社長や従業員の方々にもご参加頂きました。学生の提案は早速取り入れたいと意欲的で、今後、実際の企業活動において学生たちの視点が活かされることが期待されます。課題の発見や新たな発想は、生まれつきクリエイティブな人だけのものではなく、適切な手法を用いて自分たちにも実践できることを実感できたのではないのでしょうか。



グループワークの様子



ソリューション発表の様子

## コア科目(選択)「グローバル基礎研修」

本講義は平泉を広い視野から捉えることを目的としており、本年度は8月22日(月)から25日(木)に実施しました。受講者は20名(岩手大学生16名、盛岡大学生3名、岩手県立大学生1名)でした。

最初の2日間は基礎的知識を得るため、「文化財論」、「考古学」、「歴史学(古代史)」、「歴史学(仏教史)」の観点から平泉について学びました。ここでは、平泉の歴史・文化の特徴について、地域史という視点にとどまらず、日本史、東アジア史のなかに位置づける講義が展開されました。

3日目は八木光則氏(岩手大学平泉文化研究センター客員教授)の案内のもと、現地見学を行い、中尊寺、平泉文化遺産センター、毛越寺、無量光院跡、柳之御所遺跡、平泉世界遺産ガイダンスセンターなどをめぐりました。4日目はグループワークを実施し、平泉への興味・関心について、これまでの学習成果を踏まえて議論を行ったうえで、プレゼンテーション資料を作成し、発表しました。

本年度は受講者全員が講義・現地見学に熱心に参加し、グループワークおよびプレゼンテーションに取り組んだことにより、大変充実した内容の講義になりました。



中尊寺の見学風景



発表の様子

## 地域課題解決プロジェクト 中津川エリア活性化プロジェクト「コンヤ、行こっか。」

いわて高等教育コンソーシアムで取り組んでいる地域課題解決プロジェクトとして、令和3年度より中津川エリア活性化プロジェクト「コンヤ、行こっか。」の活動を行っています。プロジェクトメンバーの澤口花咲さん(岩手大学)、大藤俊介さん(盛岡大学)は、中津川・紺屋町エリアの歴史的建造物や歴史ある商店、特徴的な飲食店等と学生をつなぐことを目的として、学生の多くが利用している「Instagram」と連携したマップ作成を企画し、合同会社homesickdesignと共同で『中津川・紺屋町エリア 探訪BOOK』を制作しました。

表にお店の紹介、裏に地図が描かれている1枚の紙の状態から、冊子と地図の2つの役割を持つマップにするために、同社の城氏にご指導をいただいた後、2,000部すべて手作業で折り折し完成させました。このマップはただ情報を詰め込むのではなく、「Instagram」への誘導を促すためのハッシュタグ等も掲載しています。同時に「Instagram」で「コンヤ、行こっか。」の情報発信も開始し、現在もフォロワー数を増やしています。

完成した『中津川・紺屋町エリア 探訪BOOK』(2,000部)は県内の学生だけでなく、より多くの人に見てもらえるように駅などの公共施設等にも配布しました。

中津川・紺屋町エリア 探訪BOOK▶



合同会社homesickdesignさんとの製本作業の様子



## 地域リーダー育成プログラム 「地域を担う中核的人材」認定証授与式

平成27年度から開始されている、いわて高等教育コンソーシアム「地域リーダー育成プログラム」では、平泉や賢治らに育まれた共生の思想(人と自然との共生、万物の共生)を尊び、地域全体を思いやるリーダーとして、コーディネート力を備え、多様な領域・局面で地域の中核を担う人材の育成を目指しております。

当プログラムは、いわてコンソ連携校(単位互換協定校)の学生を対象にしたもので、あらかじめ指定された地域課題や復興に関わる科目(コア科目)の必要単位(4科目8単位以上)を修得し、さらに地域の課題解決策を学生たちが主体的に考え実行する「地域課題解決プロジェクト」を遂行した学生のうち、審査に合格した学生に対して、「地域を担う中核的人材」認定証を授与しております。

今年度は、プログラム開始以降5人目となる「地域を担う中核的人材」認定者が決定し、コンソーシアム連携校の学長、校長及び所長同席のもと認定証授与式が執り行われました。



認定者(澤口 花咲さん)といわて高等教育コンソーシアム連携校の学長、校長及び所長

### 【認定証授与者】

岩手大学 人文社会科学部地域政策課程3年 澤口 花咲 さん

### 【認定証授与式】

日時：令和4年8月5日(金) 15時30分 場所：岩手大学 事務局2階 第1会議室

### 【認定学生の紹介】

このたび、地域を担う中核的人材に認定された澤口さんは、1年次の終わり頃から数名の有志とともに盛岡市の中津川流域エリアでの活動を志し、「中津川エリア活性化プロジェクト：コンヤ、行こっか。」に取り組んできました。本プロジェクトは、盛岡市の歴史的にも文化的にも魅力的なエリアである中津川流域、特に紺屋町周辺存在を知らない県内学生が多いことを危惧し、学生たちに魅力を伝え、足を運びきっかけを創出することを目的としたものです。活動当初は中津川エリアの魅力を伝える動画を作成して「YouTube」での発信等を企画しておりましたが、新型コロナウイルスまん延防止のため課外活動に制約がかかり、十分な成果を挙げられませんでした。

しかし、この制約下でも、澤口さんは中津川流域の歴史や建造物についての文献調査を続け、学生向けに発信するための方法を模索し、2年次の半ばからは、中津川流域エリアの歴史的建造物や歴史ある商店、特徴的な飲食店などと学生をつなぐことを目的として、学生の多くが利用している「Instagram」と連携したマップ作成を企画し、完成させました。このマップは情報を詰め込むのではなく、「Instagram」への誘導を促すためのハッシュタグ等を中心としたもので、オリジナリティがあり、同時に「Instagram」を用いた「コンヤ、行こっか。」の情報発信も開始し、確実にフォロワーを増やしています。

このように、澤口さんは、「新型コロナウイルス感染症蔓延防止のための活動制限」という強い制約条件がかかっていたにも関わらず、常にできることを考え、新しいアイデアを発想し、実現させるために粘り強く活動を続けてきました。この諦めない姿勢、そして身近な地域の魅力を見いだす能力により、これからの持続可能な社会を作るレジリエンスを備えた人材になることが期待されます。



普段の授業やサークル活動のほかに集中講義を受け地域課題解決プロジェクトを行うことは簡単なことではありませんでしたが、とても良い経験になりました。集中講義の一環で、ボランティアとして陸前高田にある松林の除草作業をする際に、後世のために今できることをする地元の方々の姿を間近で見て感銘を受けました。また地域課題解決プロジェクトでは、紺屋町エリアに何度も足を運び、活動していく中で感じたお店・施設の方の紺屋町へ向けた熱い思いを、私たちの製作物に落とし込む作業は難しくはありましたがやりがいも感じました。これからも歩みを止めず、愛する地元のために私ができることを前向きにひたむきに考え、取り組んでいきたいです。

岩手大学 人文社会科学部  
地域政策課程3年 澤口 花咲

いわて高等教育コンソーシアムでは、地域の中核を担う人材の育成に向け「地域リーダー育成プログラム」を継続していきます。

## コア科目(必修)前期集中講義「ボランティアとリーダーシップ」

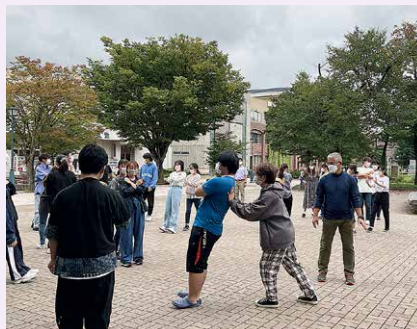
地域リーダー育成プログラムの必修科目「ボランティアとリーダーシップ」は、ボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割、組織の動かし方について学び、ボランティア実習を通して実践することで、様々な状況に対応し得る能力と知見の修得を目的とし、集中講義形式で行われます。

今年度の講義は、新型コロナウイルス感染症の影響により合宿は中止し、9月5日(月)から8日(木)の4日間開講しました。受講者は39名(岩手大学37名、岩手県立大学1名、盛岡大学1名)でした。

講義初日に歩健学研究室 西村千尋先生から、コミュニケーションの取り方を実践で学び、四天王寺大学 吉田祐一郎先生からは、ボランティア活動の基礎知識や実際の活動の仕方など先生の実体験を交えて講義いただきました。2日目の岩手大学 後藤尚人先生の講義では、リーダー論・リーダーシップ論について学び、地域リーダー像をグループで考察し発表を行いました。

3日目のボランティア実習では、釜石市の根浜海岸に行き、海岸前の松林に落ちている松葉回収や草刈り、砂浜の清掃を行いました。また、旅館『宝来館』を営む女将の岩崎様から、東日本大震災被災時の貴重なお話を拝聴しました。

この講義のアンケートで参加学生から、「災害ボランティアというもののシステムや気持ちのあり方を良く理解できた。」「今回の授業では、ボランティアに関することを、講義、グループワーク、実習の3つの視点で学び、リーダーシップとフォロワーシップの大切さについて深く学んだ。」という感想が寄せられ、4日間の講義が有意義な時間となった様子が伝わってきました。



コミュニケーショントレーニングの様子  
(歩健学研究室 西村先生)



ボランティア実習の様子  
(釜石市根浜海岸)

### ～大学での学びをちょっとのぞいてみませんか?～ 単位互換・高大連携「駅前講義」

岩手県立大学アイーナキャンパス(盛岡市)において、県内高校生の進学意識の向上を目的として「駅前講義」を8月5日(金)に開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔地の受講希望者に対して、初めてオンラインでの配信を行いました。講義では、「大学での学びとこれからの社会」と題して、岩手県立大学猪股俊光教授から大学で学ぶ意義、これからの社会 Society 5.0 の話題やいわて高等教育コンソーシアム単位互換制度の紹介等のご講演をいただきました。県内の高校生・保護者等を中心に、会場での受講、オンライン配信による受講合わせて25名が参加し、「大学での学びについて、学ぶことの大切さについて考えさせられた」、「大学のこと、社会のことへの関心が高まった」、「進路決定において参考になった」等の感想が寄せられました。

また、講義の終了後、現役大学生による体験談発表を行ったところ、参加者から「大学生の生の声を聞けた」と好評でした。

そのほか、展示会場では、大学進学についてのPRや県内各大学の紹介を行い、参加者は各大学の案内や学生生活の展示を熱心に見学していました。



猪股教授による講義



大学生による発表

### 単位互換・高大連携 大学進学率向上プロジェクト

大学進学率向上プロジェクトは、岩手県内の高校で、これまで大学進学を考えていなかった生徒・保護者に、大学進学を考えてもらう機会を作り、それを契機に、県内のみならず全国の大学への進学を実現し、大学進学率の向上に繋げるという活動を行うものです。今年度は、パンフレット「大学進学のススム」を発行し、岩手県内の高等学校に配布するほか、大学進学に関する講演会を二つの高等学校で実施しました。

9月9日に岩手県立伊保内高等学校にて、岩手大学の後藤尚人教授(大学進学率の向上に関するプロジェクトチーム代表)が「これからの大学進学」と題した講演を、生徒18名に対して行いました。講演では、高校と大学の違い、大学進学状況や大学での学び、大学進学のコスト、大学生活、入学と卒業のメリットについての話があり、所々生徒に対しての質問形式で行われました。

9月17日には、岩手県立不来方高等学校が開催した「第1学年PTA保護者進路説明会」の中で、生徒保護者103名に対して、後藤尚人教授が講演を行いました。

本活動をきっかけに、生徒、保護者が大学進学を真剣に考え、目指し、大学進学を果たせることを願っております。



伊保内高校



不来方高校

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局(岩手大学法人運営部総務広報課内)

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8

TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014 [E-mail] ihatov5@iwate-u.ac.jp [URL] http://www.ihatov-u.jp/